

『良くなりたいか』(ヨハネの福音書 5章 1-9 節) 2021.7.25.

<はじめに> ことばが人の心に届き、人を動かし、予想外の展開に至ることもあれば、空しく響き、ことばが踏みにじられることもあります。文字にすれば同じことばでも、その効果に雲泥の差があるのはなぜでしょう。この箇所ではイエスはたった二言発しただけです。しかしその結果は絶大です。

I 近づくイエス(1-6)

①祭りの傍らで(1-4)

何の祭りがは分かりませんが、巡礼者の一人としてイエスもエルサレムに上られました。華やかで歓喜に満ちた祭りの喧騒の傍らに、治癒困難な病を抱える大勢がいます。この病人たちは、なぜベテスダの池の周囲にいたのでしょうか(脚注 3-4 節)。

②ベテスダの池(2-4)

神殿の北側、羊の門の近いベテスダ池は、南北 2 つの池を 5 つの回廊が囲み、大勢の病人たちはそこに横になって、癒されるために千載一遇の機会を待ち望んでいました。ベテスダは「神のあわれみの家」の意、その名で呼ばれるようになったのはなぜでしょう。

③そこに…イエスは (5-6)

そこにイエスは現れ、一人の人に目を留められます。池のほとりで横たわるその人の風采はどうで、そこからどんなことがわかったでしょう。イエスを見て、知って、語り掛けます。それは、今を生きる私たちにも同じです。

II 語り掛けるイエス(6-9)

①「良くなりたいか」(6)

苦しみ悩む人にどう声掛けしたらよいかと、私たちはことばを探します。イエスは彼に「良くなりたいか」と声を掛けます。問われた人はどう思ったでしょう。当然わかりきっていることを、イエスはあえて尋ねたのはなぜでしょう。声を掛けられると、人はその方を向きます。

②病人の答え(7)

38 年間の彼の葛藤がことばに溢れています。何度か水が動くのを、癒される人を見たのでしょう。しかし、助け手がないから、競争に負けたから、彼は今もここにいるのです。切々と訴える彼のことばから、彼が何を願い、何に期待していると読み取ることができますか。

③「起きて床を取り上げて、歩きなさい」(8-9)

このことばは彼が癒されて後に掛けられたものではありません。普通なら「無理です」と答えそうなものです。しかしすぐに彼は治って、床を取り上げて歩き出しました。このことから、イエスとはどういう方だと分かりますか。イエスのことばが彼に何をもたらしたのでしょうか。

III イエスのことば

①すぐそばにある

世間も彼も、この池で起こる奇跡に神のあわれみを見ようとしていました。しかし、神は自由な方です。彼の傍らにイエスが立ち、声を掛け、癒されました。イエスはあわれみを示すために神が遣わされました。イエスのことばで、彼は池の水面からイエスに向き直ります。

②方法と目的

彼は長年の病から癒されることを切望していました。そのために池のほとりに来て、水の動くのを待ち、真っ先に入ろうとし、助けが与えられることを願っていました。方法が目的へと次第にすり替わることはよくあることです。イエスのことばは、それに気付かせるものです。

③ことばの力

イエスの御業は型どおりではありません。ここでは彼は癒しを求めてもおらず、イエスは手を置いて祈ってもいません。ただ彼を思い、一方的に命令されました。彼には何もできないからです。そのことばを聞いて、彼はその通りにしたのです。そこに信仰が見られます。

<おわりに> ことばはその人そのもの、その心・思いが滲み出ます。ことばのやり取りを通して、人格と人格、心と心がふれあい出会います。私たちはイエスのことばに触れるとき、イエスと出会います。イエスのことばに振り向き、耳を傾け、そのことばに身を委ねていますか。(H.M.)